

あいちトリエンナーレ 2016 プロデュースオペラ

W.A.モーツァルト作曲 オペラ『魔笛』 (全2幕、ドイツ語上演、字幕付、日本語ナレーション)

作品について

作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756年～1791年)

台本：エマヌエル・シカネーダー (1751年～1812年)

初演：1791年9月30日、アウフ・デア・ヴィーデン劇場 (ウィーン)

原作：クリストフ・マルティン・ヴィーラント 童話集『ジンニスタン』から「ルル、あるいは魔笛」

あらすじ

王子タミーノは、大蛇に襲われているところを3人の女性に助けられる。彼女たちは、夜の女王に仕える侍女だった。侍女らは女王の娘パミーナがザラストロの神殿で捕われの身となっていることをタミーノに伝える。パミーナを助けようと出発するタミーノとお供の鳥刺しパパゲーノに侍女たちは魔法の笛と鈴を渡す。

パミーナが捕われている神殿に到着したタミーノだが、ザラストロの真の姿を知り、パミーナと結ばれるため、ザラストロが課した試練に挑む。パミーナも3人の童子の助けを得ながら試練に挑む。恋を渴望するパパゲーノは試練の途中で脱落するが、老婆の姿に変えられた娘パパゲーナと結ばれる。

娘を奪われ復讐に燃える夜の女王は、侍女たちを引き連れて神殿へ侵入するが、ザラストロたちの前に力を失い、試練を乗り越えたタミーノとパミーナは祝福される。

今回のプロダクションについて

ダンサーとして演出家として、また美術・照明・衣裳などを自ら手掛ける美術家として独創的なセンスにより世界的に高く評価されている勅使川原三郎と、豊かな音楽的才能で注目を集めるイタリア人の若手指揮者ガエタノ・デスピノーサが、モーツァルトが最後に制作したオペラ『魔笛』の新たな魅力を創り出します。

ソリストは、ドイツ・ライプツィヒを拠点に数々の歌劇場で活躍する妻屋秀和、センセーショナルなメトロポリタン歌劇場でのデビューを皮切りにウィーンを拠点に活躍する森谷真理らトップレベルが揃い、ベテラン小森輝彦の弁者&神官Ⅰ役にも注目です。

また、佐東利穂子と東京バレエ団の精鋭によるダンスに加え、セリフをナレーションで入れるのは今回の演出の興味深い点。お馴染みの名古屋フィルハーモニー交響楽団・愛知県芸術劇場合唱団とともに、あいちトリエンナーレならではのオペラの新しい姿を具現化します。

有名な楽曲

- ・ 序曲
- ・ 「俺は鳥刺し *Der Vogelfänger bin ich ja*」 (鳥刺しパパゲーノ・第1幕)
- ・ 「なんと美しい絵姿 *Dies Bildnis ist bezaubert schön*」 (王子タミーノ・第1幕)
- ・ 「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え *Der Hölle Rache kocht in meinem Herzen*」 (夜の女王・第2幕)
- ・ 「可愛い娘か女房がいれば *Ein Mädchen oder Weibchen*」 (鳥刺しパパゲーノ・第2幕)
- ・ 「この聖なる殿堂には *In diesen heiligen Hallen*」 (賢者ザラストロ・第2幕)
- ・ 「ああ、私にはわかる、消え失せてしまったことが *Ach, ich fühl's, es ist verschwunden*」 (王女パミーナ・第2幕)

公 演 概 要

項 目	内 容						
公 演 名	あいちトリエンナーレ2016 プロデュースオペラ W.A.モーツァルト作曲 オペラ『魔笛』 (全2幕、ドイツ語上演、字幕付、日本語ナレーション)						
会 場	愛知県芸術劇場 大ホール (愛知芸術文化センター 2階)						
公 演 日 時	2016年 9月17日(土)、19日(月・祝) 両日とも 15:00開演 (14:15開場)						
ス タ ッ プ ・ キ ャ ス ト	指揮: ガエタノ・デスピノーサ Gaetano d' ESPINOSA 演出・美術・照明・衣裳: 勅使川原 三郎 (てしがわら さぶろう) 賢者ザラストロ: 妻屋 秀和 (つまや ひでかず) 夜の女王: 高橋 維 (たかはし ゆい) 王子タミーノ: 鈴木 准 (すずき じゅん) 王女パミーナ: 森谷真理 (もりや まり) 鳥刺しパパゲーノ: 宮本 益光 (みやもと ますみつ) 恋人パパゲーナ: 醍醐 園佳 (だいご そのか) 侍女Ⅰ: 北原 瑠美 (きたはら るみ) 侍女Ⅱ: 磯地 美樹 (いそち みき) 侍女Ⅲ: 丸山 奈津美 (まるやま なつみ) 弁者&神官Ⅰ: 小森 輝彦 (こもり てるひこ) 従者モノスタウス: 青柳 素晴 (あおやぎ もとはる) 神官Ⅱ: 高田 正人 (たかだ まさと) 武士Ⅰ: 渡邊 公威 (わたなべ こうい) 武士Ⅱ: 小田桐 貴樹 (おだぎり たかき) 童子Ⅰ: 井口 侑奏 (いぐち ゆかな) 童子Ⅱ: 森 季子 (もり たきこ) 童子Ⅲ: 安藤 千尋 (あんどう ちひろ) ダンサー: 佐東 利穂子 (さとおりほこ)、東京バレエ団 合唱: 愛知県芸術劇場合唱団 管弦楽: 名古屋フィルハーモニー交響楽団						
入 場 料 金 (全席指定)	S席 15,000円 A席 12,000円 B席 9,000円 C席 6,000円 D席 3,000円(学生1,500円) 車椅子席 9,600円 ※未就学のお子さまは入場できません。※学生割引は25歳以下が対象です(要学生証)。 ※団体割引があります(20名以上)。						
チケッ ト 取 扱	◆愛知芸術文化センター内プレイガイド ☎052-972-0430 (座席選択可) ◆名古屋市文化振興事業団チケットガイド ☎052-249-9387 (座席選択可) ◆チケットぴあ 【Pコード=290-787】 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Web予約</td> <td>http://t.pia.jp (座席選択可)</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">店頭購入</td> <td>チケットぴあ店舗、セブン-イレブン、サークルKサンクス</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電話予約</td> <td>☎0570-02-9999</td> </tr> </table> ◆アイ・チケット ☎0570-00-5310 http://clanago.com/i-ticket (座席選択可)	Web予約	http://t.pia.jp (座席選択可)	店頭購入	チケットぴあ店舗、セブン-イレブン、サークルKサンクス	電話予約	☎0570-02-9999
Web予約	http://t.pia.jp (座席選択可)						
店頭購入	チケットぴあ店舗、セブン-イレブン、サークルKサンクス						
電話予約	☎0570-02-9999						
発 売 開 始	4月23日(土) 午前10時						
主 催	あいちトリエンナーレ実行委員会 愛知県芸術劇場						
お 問 い 合 せ	[チケット] クラシック名古屋 ☎052-678-5310 [公演] 愛知県芸術劇場 ☎052-971-5609 http://www.aac.pref.aichi.jp/						

～表敬訪問者略歴～

勅使川原 三郎 (てしがわら さぶろう、演出・美術・照明・衣裳)

クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。1985年、宮田佳と共にKARASを結成し、既存のダンスの枠組みではとらえられない新しい表現を追及。類まれな造形感覚を持って舞台美術、照明デザイン、衣装、音楽構成も自ら手掛ける。光・音・空気・身体によって空間を質的に変化させ創造される、かつてない独創的な舞台作品は、ダンス界にとどまらず、あらゆるアートシーンに衝撃を与えるとともに高く評価され、国内のみならず欧米他、諸外国の主要なフェスティバルおよび劇場の招きにより多数の公演を行う。

自身のソロ作品、KARASとのグループ作品創作の他にも、パリオペラ座バレエ団などヨーロッパの一流バレエ団からの依頼で作品を創作。日本人振付家として初めての快挙であると同時に、世界的先駆者となっている。

また勅使川原の作り出す複合的な、高い美意識に包まれた世界観は各界で注目されており、2010年にはイタリアベニスフェニーチェ劇場の依頼により、オペラ「Dido and Aeneas」、2011年にはエクサン・プロヴァンスフェスティバルの招待でオペラ「Acis and Galatea」などを演出。造形美術家としても、日本、ドイツ、フランス、イギリス、オーストリア、などに招聘され、インスタレーション作品の創作、展示を行なっている。

また、既成の枠におさまらない実験的映像作品の創作にも意欲的に取り組んでいる。2009年にはシドニーのicinema (centre for interactive cinema research) とのコラボレーション研究の結果3D映像インスタレーション Double District を上海、フランスにて発表。2次元の映像に関しても、自らで撮影のみならず編集も手がけ、映像としての身体とその動きの新たな可能性を切り開き、全く次元の違う身体表現の世界を作り出し続けている。

またダンス教育に関しても独自の理念をもち、KARAS創設以前より常に継続してワークショップを行い、現在に至るまで国内外で若手ダンサーの育成に力を注ぐ。2008年4月に、新国立劇場・富山市オーバードホール・まつもと市民芸術館の3館で10代のダンサー達と共に1年間のワークショップを行い、創作した作品「空気のダンス」を上演し、勅使川原のダンス・メソッドの確かさが高評を得たばかりである。現在はこのプロジェクトで育った若いダンサーの数名がカンパニーの一員として国内外での公演活動に参加しながら、その身体メソッドを継承し続けている。

海外では1995年にはロンドンで1年間に及ぶ若者のための教育プロジェクトS.T.E.P. (Saburo Teshigawara Education Project) を設立、1999～2000年にはS.T.E.P.2000を発足しロンドンとヘルシンキの共同企画公演「Flower Eyes」へと展開した。ここでもやはりワークショップに重きをおき、1年かけての準備がそれぞれに行なわれている。

その他、ローレックス メンター&プロトジェ アートプログラムのメンター(指導者)を委託され、1年間(2004～2005年)に渡り若手芸術家育成支援事業に関わった。

2006年度から2013年度は立教大学現代心理学部映像身体学科において、また2014年度からは、多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科の教授として教育現場における新世代との創造活動にも熱い意欲を注いでいる。

その他にも執筆活動を行うなど、芸術表現の様々な局面で常に新たな可能性を切り開いていくアーティストとして、国際的な注目を集めている。



©Norifumi Inagaki

森谷 真理 (もりや まり、ソプラノ、王女パミーナ役)

栃木県出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院及びニューヨーク・マネス音楽院修了。第5回ヴェロニカ・ダン国際声楽コンクール1位、第2回チャールズ・A・リーナム声楽コンクール第1位等国際コンクールで受賞歴多数。

メトロポリタン・オペラにて、ジェームズ・レヴァイン指揮『魔笛』夜の女王でアメリカ・デビューを飾った。夜の女王役では、ウィーン・フォルクスオーパー、ライプツィヒ歌劇場、スコティッシュ・オペラ、グラインドボーン音楽祭のツアー等で出演。アメリカでは、夜の女王役に加えて、『愛の妙薬』アディーナ、『ランメルモールのルチア』ルチア、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『フィガロの結婚』スザンナ等を歌っている。

ヨーロッパ・デビューは、2007/08 シーズンにアイルランド・オペラ『トゥーランドット』リユー。その後、オーストリア・リンツ州立劇場の専属歌手として『ラクメ』『マリア・ストゥアルダ』タイトルロール、『バラの騎士』ゾフィー、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ラ・ボエーム』ミミ、『チェネレントラ』クロリンダ、宮本亜門演出による『魔笛』夜の女王、パミーナ両役などに出演している。加えて、リンツ・ブルックナー管弦楽団とベートーヴェン「第九」ソリストとしても共演している。

14/15 シーズンは、びわ湖ホール『リゴレット』ジルダ、フランダースオペラ『アクナーテン』タイ女王、イスラエルカメラータとのコンサートツアー、リンツ州立劇場にて『魔笛』夜の女王、『ばらの騎士』ゾフィー、15/16 シーズンはリンツ州立劇場『椿姫』ヴィオレッタ、ライプツィヒ歌劇場及びバーゼル劇場で『魔笛』夜の女王に出演。同年東京二期会『魔笛』夜の女王、兵庫県立芸術文化センター『夏の夜の夢』ティターニアで絶賛を博す。2016年、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェ、名古屋フィルハーモニー交響楽団『第九』で出演予定。ウィーン在住。二期会会員



佐東 利穂子 (さとう りほこ、ダンサー)

1995年からKARASワークショップに参加。1996年より勅使川原三郎振付の全グループ作品に出演。勅使川原作品のソリストとして国際的に活躍し、各国で熱狂的な反応を巻き起こしている。

2005年ローマ初演の「Scream and Whisper」で仏・伊のダンス雑誌「Ballet2000」の2005年度年間最優秀ダンサー賞、『消息』で、2007年度日本ダンスフォーラム賞、2012年には第40回レオニード・マシーン賞を受賞、第47回舞踊批評家協会賞 新人賞を受賞。

「横浜トリエンナーレ 2008」では、ガラスの破片の敷き詰められたインスタレーションの中で5時間ぶっ通しのパフォーマンスを敢行。刃物のような鋭利さから、空間に溶け入るような感覚まで、質感を自在に変化させる佐東のダンスは、身体空間の新たな次元を切り開く芸術表現として注目を集めている。

勅使川原作品の振付・演出助手も務めており、KARAS作品のみならず、「AIR」(パリ・オペラ座バレエ団)等の勅使川原の他舞踊団への振付作品でもダンス・ミストレスの役割を担っている。

また、勅使川原の教育プロジェクト「空気のダンス」、S.T.E.P.(Saburo Teshigawara Education Project)、ニューカッスルでのKARASサマー・セミナー他でワークショップを行うなど、青少年のダンス教育にも積極的に取り組んでいる。



©Saburo Teshigawara